

令和8年度 第2回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和8年9月17日（木）14時00分～15時30分
四国森林管理局 局議室（対面・WEB）

2 議題

- (1) 管内における木材需給、価格動向等について
- (2) 各分野における現状や今後の見通しについて
- (3) 意見交換
- (4) その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

木材需要については、住宅着工の減少に伴う需要の減退が予見される一方、円安の進行等の影響により、管柱や間柱等の建築用材について、輸入材から国産材へと代替が進む動きも見られるところである。

四国内では、昨年末からヒノキ原木の供給過多により原木価格が下落傾向にあった。直近では、価格下落の影響や虫害の時期であることから、ヒノキ原木の出材が減少しており、製材工場の原木在庫量の減少も見られるところ。引き合いは回復基調にあり、ヒノキ原木価格は底打ち保合となっている。

スギ原木については、継続して引き合いは安定しており、価格は保合となっている。

今後、本格的な出材時期となるが、特にヒノキの需給については引き続き注視が必要な状況である。

以上の状況を踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備及び立木販売を通じた安定的な原木供給に努める。引き続き、原木市場や製材工場における原木の需給動向を見極めつつ、地域の実情に即した供給調整の要否を検討していくこととする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・高知県内の原木生産量は、第1四半期は前年同期比で減少。原油価格高騰に加え、資材等の高騰・出荷制限が顕在化しており、生産活動の低下が懸念される。
- ・生産活動は天候が安定しているため順調に進んでおり、ヒノキの値下がりによりスギを中心とした出材となっている。今後の生産活動は引き続き順調に進んでいくと考えているが、燃料費・消耗品費の値上がり、入荷未定などにより、生産活動へ弊害が危惧される。

○ 原木市場等

- ・スギは買い気旺盛で絶対量が不足している。ヒノキは製品市況の影響を受けて買

い気は弱く入荷も少ない。今後の価格動向は、スギは大幅な変動はなく、ヒノキ 4 m材は安定価格で、3 m材は住宅着工件数に左右されながら動く見通し。生産現場から製材への直送により入荷量が減少していると感じる。

- ・ 4月～8月（前年比）スギの入荷量は増加、引き合いは安定しており荷動きも良好。ヒノキの入荷量は減少し引き合い弱い状態が続いているが、荷動きはある程度良くなってきた。今後、入荷量は徐々に回復するのではないかと予想。スギについては、輸入材からの代替や輸出向けの需要が多くなっていると感じる。

○ 製材工場等

- ・ 製材は価格を上げてきているが市況は悪く、昨年と比較して2割以上の販売減となっている。原木高の製品安は住宅着工数に依拠する。住宅業界も寡占化の時代を迎えるものと思われる。
- ・ ヒノキの原木集荷は7月から通常仕入れに戻しているが、市場等での出材が少なく、思うように仕入れが進んでいない。工場の生産は計画通りで順調であるため、原木在庫は減少。桧の出材に期待。JAS 製品の出荷量が、7月、8月に増加。単価も安定しており、JAS 認証を強みとした販売を強化し需要動向を見極めて柔軟に対応していく。また、羽柄等の割物の注文も引き続き順調。